

みんなのほくぶつかん みんなぽく

MINPAKU

みんなぽくのデータベース、3つのあらたな仲間

<http://htq.minpaku.ac.jp/menu/database.html>

[みんなぽくホームページ](#) → [共同利用](#) → [データベース](#)

みんなぽくでは、収蔵している標本資料や映像音響資料などの情報や写真をデータベースとして公開しています。2016年、あらたに3つのデータベースが仲間入りしました。主として調査・研究活動や現地社会への還元を目的としていますが、検索のためのことばがわからなくても、メニューを選んでいだけで気軽に閲覧できるように工夫されています。データベースの種類やその内容は、これからも更新していく予定です。ほかのデータベースと組み合わせてみると、自分なりの使い方を見つけてご覧ください。

「国立民族学博物館所蔵

京都大学学術調査隊写真コレクション」

京都大学による学術調査隊のうち、梅棹忠夫 初代みんなぽく館長と石毛直道 第3代館長が深くかかわった3つの調査隊の写真資料を公開しています。1960年代に撮影された貴重なものです。「撮影地」「撮影時期」「隊員」「内容」などの項目から写真を探せます。「隊員」の項目では、隊員が撮影した写真と、当人が写っている写真を見ることができます。そこには、梅棹・石毛両元館長や、調査隊に参加した現在のみんなぽく名誉教授の約50年前の姿が写し出されています。日本の学術調査の歴史を知るうえでも、重要な写真資料です。



「沖守弘インド写真データベース」

日本にはじめてマザー・テレサを紹介した写真家・沖守弘さんが1977年から1996年のあいだに撮影したインド、ネパールの写真が閲覧できます。約2万点の写真は、「撮影場所」に加え、「自然景観・生態」や「人物」といった大項目と、詳細な小項目に関連づけられています。華やかな各地の衣装の多様さや、賑わう祭礼の様子、生き生きとした人びとの表情はもちろん、今ではなかなか目にすることができなくなった芸能や工芸、建築物などの写真も見どころのひとつです。



「身装画像データベース〈近代日本の身装文化〉」

明治維新（1868年）から第二次世界大戦終結（1945年）までの日本の身装文化（身体と装いの文化）とその変容を、新聞小説の挿絵や写真、図版などから読み取ります。「身装画像コード」「年代」「制作者」という項目があります。画像には、性別や服装、髪型など、内容からさまざまなデータがつけられており、それをキーワードとして、さらなる検索がおこなえます。データベースに付属する約250本の「参考ノート」も読み応えがあります。



みんなぽくをもっと楽しみたい人のために——— 会員制度のご案内

詳細については、「国立民族学博物館友の会（一般財団法人千里文化財団）」までお問い合わせください。

電話06-6877-8893（平日9:00～17:00）

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんなぽく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんなぽくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます（特別展示は観覧料割引）。他にも、みんなぽくを楽しむための特典がいっぱいです。

国立民族学博物館 キャンパスメンバーズ

みんなぽくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。